

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ケアガーデンオアシスグループホーム「つきとほし」
(ユニット名)	ほし
所在地 (県・市町村名)	長崎県諫早市福田町2番22号
記入者名 (管理者)	「ほし」ホーム、長 藤田 富士子
記入日	平成 21 年 2 月 20 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		これまでの理念は「笑いながら元気に自分のペースでゆっくりと人生を楽しみましょう！」で、その人らしく暮らしてゆける理念として作り上げたが、地域密着としては不十分と思う。  現在の理念に「やさしい街でやさしい人たちと」を加え、地域の中でその人らしく生活することができる理念として全職員で取り組んでゆきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		スタッフ会議の場、またそれ以外でも常に理念に基づいての具体的なケアの実践に向けて意見の統一を図っている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		地域の方々との関わりはまだ十分ではないと思うが、運営推進会議を設けたことによって少しは身近になったと思う。家族との食事会等で話す機会は持っている。  ホーム便りを発行したり、地域密着型としてのホームの取り組みをわかりやすく伝えてゆきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		日常的に、散歩・買い物などに出かけ近所の人々と挨拶を交わしたり、公園でゲートボールをしているところに立ち寄り、声をかけさせてもらっている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		町内会に加入している。事業所としての町内の運動会・お弘法さん等にも参加し、交流を深めている。ホームとして、幼・小・中・高の生徒さんや子供たちとの交流も沢山ある。  1名の入居者は以前からの老人会に参加している。他の入居者も町内の老人会等に参加できるように取り組んでゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域高齢者との関わりはまだ少ないと思うが、人材育成の貢献として実習生の受け入れは積極的に行っている。</p>		<p>地域住民を対象に認知症に対する理解や接し方についての勉強会の場を設けたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の意義や目的を職員に伝え、自己評価は全職員で取り組んでいる。外部評価の結果は職員に報告し、改善すべきところは改善し、良いところはさらに良くなるように全職員で努力している。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>前回の運営推進会議の反省を活かしこれまでの評価結果を踏まえて、現在取り組んでいる内容についても報告した。</p>		<p>運営推進会議で外部の方の率直な意見を引き出し、事業所からの報告とともに気軽に意見交換ができる会議へと繋げてゆきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村との関わりはまだ少なく運営推進会議のみである。</p>		<p>地域密着型になり、これを機に市町村との連携を図り、入居者の課題解決のために共に取り組んでゆきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は権利擁護事業所や成年後見制度の研修に参加しているが、全職員への説明は不十分だと思われる。</p>		<p>勉強会を開き、職員の理解を深めるように取り組んでゆきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待については、日頃から現場の中で話し合い、またスタッフ会議等においても特に言葉での虐待はないかとお互いに注意し対応方法についても検討し防止に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は時間をとって説明し、重度化したとき又退去を含めた事業所の対応について理解していただき同意を得ている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の言葉・態度からその思いを察することが出来るように心がけている。家族等の苦情は電話によることが多く、その都度職員へ周知し、速やかに対応に努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>訪問時には現在の様子を報告し、また来られない家族には電話で報告するようにしている。金銭出納帳は訪問時などに確認していただき、確認の印・サインをお願いしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの苦情・不満・要望などは、管理者がきく場合が多いが、謙虚に受け止め又職員の意見も聞き、家族への対応を行っている。</p>	<p>家族等からの不満・苦情を管理者から伝える場合、十分な家族の思いを伝えることが出来ていないと思う。家族と職員が一緒になって意見交換のできる機会を作るようにしている。2 / 20に入居者の家族懇親も含め、食事をし家族会を開催した。今後も、年に2回は行いたいと思っている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のスタッフ会議の中で職員の意見・要望などは十分聞くように心がけ、運営者にも報告し意見を反映させ質の向上につなげる努力をしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>その都度、必要に応じての職員体制に関しても、現在は対応できるようになった。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>施設内での移動は殆どないが、離職等の場合は入居者に報告し精神的なダメージを防ぐようにそのケアには気を配っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する講演会や研修会などには参加する機会が増え、職員の意識の向上につながっている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、協議会主催の勉強会や研修会が開催され、同業者としての悩みまたはサービスの質の向上に向けて意見交換を行い、日々のケアに活かしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	事業所に職員全体のストレス緩和に向けた環境作り、また職員同士の人間関係についても把握しいただきたい。		事業所は、ホームの仕事内容を把握し、職員の意見・要望に対して出来る限りスムーズな対応に努めていただきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況の把握は、勤務表の提出において把握しており、日々の業務内容についてはホーム日誌と訪問時の報告としている。問題が発生した時もつねに状況報告し把握に努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状態を把握するように努め、職員に周知し一日でも早く信頼関係が築けるように努力している。		現在は、1Fにあるデイサービス利用者が入居に至るケースが多く、不安・淋しさ等を感じたときはデイサービスに行き、知人達と会い会話ができるように配慮している。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には一度見学に来ていただき、入居者の状況や家族からの意見・要望等をよく聞き、又事業所としてどのような対応出来るか事前に話し合い安心して利用できるよう取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人・家族の思いや状況を確認し、改善に向けての相談を繰り返し行い、必要に応じて他のサービス利用の調整を行うなどの対応に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設しているデイサービスを利用されていた片が入居に至ったケースでは、本人の安心感も大きく職員との信頼関係も早く築くことが出来た。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の味付け・野菜切りなど得意分野での力が発揮できるよう支援している。人生の先輩であることを共有し、教えてもらうことも多々あり感謝している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子を伝え、本人のために家族との協力関係が大切なことを理解していただき、又家族の思いも受け止め同じ思いで支援していることを伝えている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族両者の思いが結び付くように、日頃の状態を報告・相談しよい関係を継続できるように努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人から絵手紙党も届き、その返事を書けるような工夫をしたりして友人や知人との関係が途切れないように配慮している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士でも好き嫌いがあったり日々の感情の変化もあり注意深く見守るようにしている。食事の時間は職員も一緒に食し、会話をもつようにし、入居者同士の関係が円滑になるような働きかけをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去されてからの家族との関係は殆どないが、外でお会いした時には挨拶や近況等を尋ねたり、又近くに来た時には立ち寄って頂くように言葉をかけている。		他の施設に移られた家族が写真などを持ってこられ、元気である様子を伝えてくださり、入居者もスタッフもとても喜んでいる。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中でどのように暮らしたいのか、何をしたいのかをさり気なく聞くようにしており、意思の疎通が困難の方には家族からの情報をもらい全職員が本人の視点に立って取り組んでいくことが大切である。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には今まで使用していた筆筒・椅子・机等、馴染みのものを持ってきていただき、生活環境を少しでも保たれるようにし、本人や家族からどのような生活を望んでいるのかを聞き取るようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の暮らしの中で、生活リズムを把握し、変化があった時は直ぐに対応できるように心がけている。必要に応じて、再度バイタルチェックも行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族との日頃の関わり合いの中で、思いや思考を聞いた上で、職員全員で意見交換やモニタリング・担当者会議を行っている。		職員全員がケアプランに取り組めるように勉強会を行っていくように努めている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を把握し、状態や状況が変化した場合は家族や本人の要望を取り入れた上で途中見直しを行い新たなケアプラン作成に心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、身体的・食事・排泄など及び日々の暮らしの様子や本人の言葉等を記録しており、すべての職員が確認できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設しているデイサービスを利用し歩行訓練を行っている。また、施設内の中庭で園芸等の趣味活動も取り入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方のボランティア・踊り・消防などに協力していただき、今後も交流の機会を多く設けたい。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の希望に応じて行きつけの美容室を利用されたり歯科往診も利用されている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは今のところ関わりはない。		グループホームにおける地域包括支援センターとの関わりがどのようなものかはっきりしない。今後活用できるように情報交換をしてゆきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医となっている受診・通院は、基本的には家族にお願いしているが、不可能な時は職員が代行するようにしている。かかりつけ医の往診を利用されている方もいる。		専任ホームドクターの採用をし、緊急時の対応に備えている。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医に限らず、認知症に対しても詳しく、相談に對しても適切な指示や助言をしてくださるので頼りにしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	掛かりつけの病院の看護職員とは気軽に相談できる関係ができており、医師との連携も密にとれる体制がある。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人の情報を医療機関に提供し家族とも情報交換をし、またお見舞いに伺うようにして経過を見ながら早期退院と退院後の介護に結び付くように努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う事業所の対応しうる最大のケアを家族に説明し医療機関との連携に努め、チームで支援方法を話し合っている。		自立した日常生活が円滑に送れるようにできない部分を支援してゆきます。プリントを作成し、機会を見ながら家族へ説明し理解を頂いている。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期のケアまでは事業所としては行っていないが、重度化に伴いどこまでホームとして対応できるか・全職員で話し合い主治医との連携を密に持ち家族に気持ちを大切に最大限の支援に取り組んでいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別のグループホームに移る場合、移り住む側の担当者が本人に面会しこれまでの生活習慣が損なわれないように情報を提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関しては、常に慎重に取り扱うようにしている。また、入居者のプライバシーが損なわれないような対応についても日々話し合いを持っている。	
51	<b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の立場に立って耳を傾け、出来る限り自己決定が出来るような場面を作り、その人その人にあった言葉かけを工夫している。	
52	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活ができるように日々努めているが、日々の業務に追われ職員の都合を優先することもあり柔軟な対応が十分でない。	入居者のペースを守るために日々の業務の中で職員同士が常に工夫してゆくことが大切であり、精神面でもゆとりある業務ができるようにと取り組んでゆきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<b>身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個人的に行きつけの美容院に行かれている方もいる。出張カットも利用している。出かける時の洋服を自分で選ぶことができる方が少なく、本人の意向を伺いながら支援している。	
54	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の好みを尋ね、一緒に料理をしたり、配膳・下膳なども手伝っていただいている。食事は一緒にテーブルを囲み、楽しく食事ができるように努めている。	
55	<b>本人の嗜好の支援</b> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の嗜好を取り入れながら、おやつを考えたり、また一緒に作ることもある。甘いものが好きな方が多く饅頭の時はとても喜ばれる。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、時間や習慣を把握するように努めているが、失敗する方も見られる。本人が傷つかないように周囲に気づかれぬように手早い対応を心掛けている。		トイレ誘導の際、あからさまに声かけすることもあり、不快感を与えたこともあったと思う。今後は、さりげなくトイレでの排泄ができるように取り組んでゆきたいと思う。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の業務体制にもよるが、午前・午後の入浴体制を整えている。入浴嫌いな方にはタイミングを大切にしている。入浴剤で気分転換を図り、楽しみながらの入浴を支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の生活リズムに合わせながら、寝付けない時には温かい飲み物を提供し、安眠できるように支援している。		昼寝を長い時間する方には、昼夜逆転にならないように起床の声かけを行い、会話する時間を設けるようにしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お手伝いをお願いしたり、近くへ買い物やたまにはドライブに出かけたりして、得意分野でひとりひとりの力を発揮してもらえるように支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を持っている人もいるが、ホームのほうでは家族からの預かり金を管理している。殆どの方がそのようにしている。自分でお金を払うという機会は殆どない。		外食の時などは、お金を渡して自分で払うという喜びを実感できるように支援してゆきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、本人の気分・体調をよく見た上で散歩や買い物やドライブに出かけている。		一人ひとりの希望に添うことはなかなか難しいが、一緒に散歩に出かけたり、また家族の方の協力により外食や外泊もできるようになった。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節によって行事計画を立て、桜・菖蒲・コスモスなどの花見、クリスマスのイルミネーション等に出かけて季節を肌で感じていただけるように取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	数名ではあるが電話がかかってきたり、こちらからかけてあげることもある。手紙や葉書を出されり方もあり、出来るだけ永く継続できるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	比較的家族等の面会は多い。気軽に来ていただけるように、笑顔で挨拶や対応を心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関してミーティングなどで身体拘束をしないという共有認識を図り、対象となる具体的な行為を正しく理解し日々のケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	構造上、出入りするには暗証番号になっており、自由に外へ出ることは出来ない。		建物の立地場所が、一步外に出ると車の通りが頻繁で危険である。出来るだけ入居者のストレスを溜めないように一緒に外出できる機会を増やす努力をしてゆきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者と同じ空間で事務作業をしながら、さりげなく見守り目配りを行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険と思われるものは沢山あるが、入居者の状況を把握しながら注意を促し、刃物や切れ物はホーム側で管理している。洗剤等も入居者の目の届かないところに保管場所を決めて危険防止に取り組んでいる。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態に応じて想定される事故を検討している。ヒヤリハットや事故報告書を作成し、今後の事故防止対策に繋げている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。救急救命講習会等にも参加し知識向上に努めている。		職員全員が、実際の場面で対応できるだけの学習能力と技術を身につけられるように努力したい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、避難訓練を行っている。消火器の使い方や避難経路の確認も定期的に行っている。		夜間帯での避難訓練は実施していないため、早急に実施するように心がけたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こりえるリスクについては把握しており、家族等に説明したり見てもらったりし、理解を得られるように努めている。		開設から5年がたち、入居者の転倒に関してのリスクは多くなってきているが、家族に説明し理解を得ていただいている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝必ずバイタルチェックを行い、普段の状況を把握している。変化におう気づいた時は、主治医へ報告し指示を仰ぎ職員で共有し対応にあたっている。また、記録に残すようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者ひとりひとりの薬リストを作成し、全職員が把握できるようになっている。服薬時は本人に手渡し、服用したことを確認している。		初めて処方された薬については、症状の変化などを医師に報告している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材を取り入れたり、水分補給と適度な運動をしたりして自然排便に取り組んでいる。それでも排便が困難な時は医師の指示のもとで下剤でコントロールしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後は口腔ケアの声かけを行い、それぞれの力に応じて職員が見守ったり介助を行っている。口腔内の痛みの訴えがある時は必ず確認し、状況によっては歯科医への受診も行っている。		義歯装着の方は、就寝前に義歯ケースに入れて洗剤を入れて消毒し清潔にしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量は、毎日チェックしており水分補給にも心がけている。夜間に水分が取れるようにペットボトルに白湯を入れ、全入居者がいつでも水分補給ができるよう取り組んでい。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルを作成し、職員で作成し学習し予防に努めている。インフルエンザの予防接種は入居者も職員も全員受けている。手洗いうがいは日々の生活の中で励行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を買うため、毎日買い物に行き、食材を残さないように心がけている。冷蔵庫のチェック管理も徹底し、期限切れの食材を使わないように努めている。食器・調理器具等は乾燥機を使用し、ふきん等は毎日消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の構造上、出入りは暗証番号になっており、自由に出入りすることは出来ないが、玄関には、花や観葉植物などを置き、明るい雰囲気作りを工夫している。		構造上、施錠しているが、出来る限り昼間のみでも開放できるように取り組んでゆきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーには物を置きすぎないよう整理整頓に心がけ、季節感を採り入れた飾り付けにも心がけている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にソファとテーブルを置き、入居者同士がくつろげるスペースを設けているが、殆ど洗濯物をたたむ場所になっており、たまに入居者同士がおしゃべりする場になっている。		南側廊下にソファを置き、寒い日は日向ぼっこでもしてくつろげるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた馴染みの家具などを持ち込まれ、本人の居心地が良いように家族が中心になって配置される。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、必ず空気の入換えを行っており、温度計・湿度計を利用し、入居者の様子を見ながら調整している。		乾燥しているときは、各部屋・フロアなど濡れタオルを掛け乾燥防止に努めている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日頃から転倒などにつながる原因はないか注意するように心がけ、今まで以上の安全対策としてトイレ・和室入り口等に手すりを取り付け対応している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ひとりひとりの分かること分からないことを職員を把握できるように努め、活動意欲や行動がスムーズに進むように支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにはプランタンを置き、季節の花を置いたり、また洗濯物や布団を干し入居者と一緒に楽しみながら支援している。中庭にある小さな畑では園芸活動も行っている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

町の中心に位置しており、3階から眺める景色はとても良いです。昨年より、ご家族の方も参加されての外食の機会を設けています。昨年は、「魚荘」へ出かけました。それぞれが好きな品を選び楽しく食事することができました。今回は、インフルエンザの流行もあって外出を避け出前を利用しました。入居者・家族・職員で食事も兼ねての『家族会』を行いました。また、入居者全員による合唱やお琴・ハーモニカの演奏を聴いて頂き、楽しい時間を持ちました。今後も家族との交流の時間を設けたいと思いません。